

武内俊子 明治 38 (1905) 年～昭和 20 (1945) 年

三原市西町の浄念寺に生まれた武内俊子は、童話・童謡作家として活躍し、「かもめの水兵さん」「船頭さん」など多くの童謡を生みだしました。

広島女子専門学校（現・県立広島大学）に進学し、退学。その後、結婚を機に東京の世田谷に住み、昭和 4（1929）年頃から、童謡や童話の創作を始め、詩人の野口雨情に師事しました。俊子の最初の作品集『風』（1933 年発行）は、ともに活動した野口雨情がその序文を書いています。

昭和初期にあつて、育児と両立させ創作に励み、当時の主要児童誌『コドモノクニ』や『幼年倶楽部』に次々と作品を発表しました。

キングレコードの童謡シリーズの一曲として「かもめの水兵さん」（昭和 12（1937）年）が武内俊子の作詞、河村光陽の作曲、河村順子の歌によって発表され、大ヒットを記録しました。その後も河村光陽の作曲で「赤い帽子・白い帽子」「リンゴのひとりごと」「船頭さん」などのヒットを連発し、一時代を築きました。これらの歌は、日本全国の子供たちに愛唱されるようになりました。

叔父の足利瑞義（哲信の妹八重の夫）は、西本願寺ハワイ開教総長を経て、龍谷大学 5 代学長（在任 1939～1944 年）となった人で、昭和 8（1933）年ハワイに旅立つ時、俊子は横浜のメリケン波止場まで見送りに行き、その時、夕日の波止場に飛び交うかもめを見て浮かんだ歌が「かもめの水兵さん」であるといわれています。

惜しくも 41 歳の若さで病没しますが、そのわずかな歳月の中に作られた数々の詩は、やさしく温かみがあります。特に子供たちへの愛情に満ちた詩が多く、俊子の子供に対する思いが強く伝わってきます。

三原市宮浦公園には、「かもめの水兵さん」と「リンゴのひとりごと」の童謡の碑が建てられています。

武内俊子は、渡辺哲信の姪（姉ツナの子）にあたります。

〔参考文献〕

- 「郷土三原ゆかりの人たち」三原市立図書館・三原歴史民俗資料館 2003 年
- 「かもめの水兵さん 武内俊子伝記と作品集」武内邦次郎 1977 年